FINA水球世界ジュニア選手権

日本代表初の8位入賞
青山が貢献
「役割果たせた」

FINA（国際水泳連盟）水球世界ジュニア選手権2019が12月12日から20日までクウェートで行われ、青山直輝（経済2・秀明英光高）＝写真＝がジュニア日本代表のメンバーとして出場。初の8位入賞に貢献した。

日本は予選リーグ2勝2敗で上位リーグに進出。上位リーグの初戦でオーストラリアに11―10で勝利し、ベスト8入りを決めた。

青山は「流れが悪い場面で出場し、雰囲気を変える役割を果たせた。過去最高の成績を残したチームで戦えたことを誇りに思う。最後まで接戦を繰り広げることができ、強豪国に一歩近づいたのではないか」と振り返った。

しかし、6試合出場で無得点に終わり、「個人としては結果を残せず、世界の選手との差を思い知らされた」と反省の言葉を口にした。

今後に向けて「大会で学んだことをチームにフィードバックしたい」と話す一方で、「日本で水球はあまりメジャーではないが、この面白い競技をもっとたくさんの人に知ってもらいたい。今大会の経験を多くの人に話し、水球を広めていきたい」と語った。（倉鹿野雅賢・経済1）

1000メートル
堀川が2位

ジャパンカップスピードスケート競技会第3戦＝12月6～8日、岐阜県・クリスタルパーク恵那スケート場

男子1000㍍で堀川大地（経営2・白樺学園高）がトップと0秒25差の1分12秒97で2位となった。

ジャパンカップは全4戦の合計ポイントを競う。「毎レース自分なりに目標を持って臨んでいる」と話す堀川は、第1戦（11月15～17日、北海道帯広市）のディビジョンBで1位。ディビジョンAに移った第2戦（11月22～24日、岩手県盛岡市）で8位となった。

「第3戦を前に、呼吸が上がりやすいと感じていたので、自転車を使ったトレーニングに取り入れ、レースで良い動きができるように調整していった」と話し、コンディションを保てたことが上位入賞につながったと明かした。

第3戦を終えて1000㍍のポイントランキングは3位。同じく3位につけている1500㍍と合わせ、最終戦（2月14～16日、青森県八戸市）で逆転優勝を狙う。

また、第2戦のマススタートで高見澤光希（経営2・小海高）が3位、第3戦の1500㍍で山口遼（経営2・帯広農高）が3位となるなど、専大勢が健闘している。（八代哲・経済3）

軽快な滑りを見せた堀川＝写真提供・川口浩氏

中西が5位

関東学生アーチェリーインドア個人選手権＝12月19～20日、世田谷区・駒沢総合運動場

プレッシャーに負けず、前半284、後半278で計562点を挙げた中西菜津子（文3・大宮開成高）が5位に輝いた。後半は思うように点が伸びず苦しんだが、気持ちを切り替えて冷静に射続けた。今回の結果により2月の全日本学生室内個人選手権出場の可能性が極めて高くなった。中西は「ベストコンディションで臨みたい。自分が満足できる結果を残せるよう努力していく」と話した。（馬場夏実・経営2）

1部復帰ならず
関東大学アメリカンフットボールリーグ戦チャレンジマッチ

1、2部入れ替え戦＝12月14日、調布市・アミノバイタルフィールド

「今年は2部の全勝優勝と1部BIG8復帰を目標に掲げ、練習を積み、試合に臨んできた」と小原清之朗主将（経済4・駒場学園高）が話すように、2部の7試合を無敗で制し、国士大との入れ替え戦に臨んだ。一進一退の攻防が続くなか、第1クオーターにタッチダウンを決められ、リードを許した。第2クオーターに蜂屋修平（法3・法政大第二高）がフィールドゴールを成功させたが反撃はここまで。3―7で敗戦し、BIG8復帰はかなわなかった。（八代）

7年ぶり2部復帰

関東学生ホッケー秋季リーグ戦2、3部入れ替え戦＝11月30日、世田谷区・明大八幡山グラウンド

3部1位の専大ホッケー同好会は、2部8位の中大と対戦した。第4クオーター、ペナルティーコーナーから峯田晃希主将（経済4・名城大附属高）のフリックに合わせ、宇佐新吾（経営1・江戸川高）が鮮やかなタッチでゴール。1―0で勝利し、7年ぶりの2部復帰を決めた。

峯田主将は「これまで入れ替え戦で悔しい思いをしてきた。これをバネに、一人一人が努力した結果、チームとして成長できた。後輩には2部でも専大らしいプレーで、多くの勝ち星を奪ってほしい」と語った。（白鳥）

留学生チームも参加して交流を深めた

笑顔あふれる第54回体育祭

12月7日、生田キャンパスの総合体育館で第54回専修大学体育祭（体育祭実行委員会主催）が行われた。留学生チームなど17チームが参加し、笑顔が絶えないイベントとなった。体育会本部の鈴木杏奈（人間科学4・韮崎高）の指導でダンス系エクササイズ「ズンバ」でウオーミングアップ。競技は大縄跳び、ランダムフリースロー、障害物競走の3種目が行われた。どのチームも一致団結して競技に取り組み、大いに盛り上がった。優勝は「SJB let's go」。（八代）

体育会就職セミナーに100人

公式戦と就職活動が重なる体育会学生にいち早く準備を始めてもらおうと、体育会学生を対象とした就職セミナーが12月11、17、18日の3日間、生田、神田の両キャンパスと伊勢原体育寮で開催された。就職課と体育事務課が連携して毎年開催しており、今年は3年次生約100人が参加し、就職活動の流れなどを確認した。

講師はマイナビと本学就職課が担当し、就活の流れと対策を説明。また、ホッケー同好会の浦部明里（文4・専大附属高）、野球部OBで佐藤工業に勤める下妻昂司さん（平31法）が「自分らしさを伝えられるように自己分析をしよう」「自分の考えを筋道立てて話せる力を身に着けよう」などアドバイスを送った。（白鳥順也・経済3）

多くの学生が参加した生田キャンパスでのセミナー＝12月17日

スプリント1・2キロクラシカル
坂詰 自信つける2位

全日本学生チャンピオンスキー大会＝12月20～23日、北海道・音威子府村チセネシリクロスカントリーコース

坂詰健太郎（商3・小出高）がクロスカントリーのスプリント1・2キロクラシカルで2位となった。

10キロクラシカルで4位、15キロフリーで7位と3種目で上位に入賞した坂詰は「幸先良く今シーズンのスタートを切った。今後を戦う上で大きな自信になる」と振り返り、「2月の全日本学生選手権で、優勝できるように頑張っていきたい」と意気込みを語った。（男神愛・商1）

安定した滑りを見せた坂詰

都合により写真は
掲載いたしません。
紙面をご覧ください。